

はじめにやりたい
「プレオルソ」。
こども歯ならび
矯正法

「プレオルソ」って知ってますか？



「プレオルソ」。こども歯ならび矯正法とは？

小児の大切な時期にこそ「プレオルソ」です。

永久歯に生え変わってからでは、全ての歯にギラギラした装置をつけるいわゆる「本格矯正」になりますが、この治療法であれば小児(6才～10才)の骨の軟らかい時期に使うことで、非常に大きな効果が期待できます。

取り外しのできるマウスピース式なのでお子様が嫌がりません。

固定式の装置は、違和感や痛みが強いですが、マウスピース式は、それがほとんどありません。装着時間は就寝時と家にいる時のみで十分です。また、食事の時に装置をはずせるので、虫歯の心配がありません。

必要十分。

実用的な「咬みあわせ」と「歯ならび」を実現します。

「プレオルソ」は、ギラギラした固定式の装置を用いて治療を行う本格矯正とは異なり必要十分で実用的な80点の「咬みあわせ」と「歯ならび」を目指しています。

実は一番気になるお金の問題。「プレオルソ」は予算的に一般の矯正よりも始めやすい治療です。

この治療法のために開発した新素材のマウスピースを使用するので、個々の口腔内への調整がやすく、治療効率が良いためです。

ご両親が非常に気にされている「お口ポカン」に代表される口呼吸を鼻呼吸へ促します。

「プレオルソ」は「咬み合わせ」と「歯ならび」を改善すると同時に機能的な側面「口呼吸から鼻呼吸へ」が非常に重要と考えています。マウスピースを使うこの治療法は子どもの成長発育にとっても大切です。

装置を使う時間はどのくらいですか？

家に帰ってから起きている間に「1時間」と「寝る時」に使います。学校に持っていく必要はありません。

僕らくらいに
始めると
いいんだって

柔らかくて
取り外しができる
装置なんだって。

治療費が
気になるよね。

鼻で息をするのも
大事なんだね。

なんでもちゃんと
食べれる歯が
いいね。

学校では、
使わなくて
いいみたい。



こんな歯ならびのお子様にも。

出っ歯

上の歯が出ている



凸凹でこぼこ

4人掛けの椅子に6人座っている状態



受け口

下の歯が出ている



「プレオルソ」のために開発されたマウスピース式装置。

柔らかい

こどもが一番嫌がる堅いレジン(プラスチックの様なもの)でなく、ポリウレタン製の柔らかい素材でできており、装着感が非常に良いので装置を嫌がらずに使うことができます。

プリフォーム(既製品です)

こどもにとって歯型を取る(粘土みたいなものをお口の中に入れる)ことは非常に高いハードルです。プレオルソのために開発したこの装置は既製品ですので歯型を取る必要がありません。

調整が簡単

従来の矯正装置は調整が非常に煩雑で嫌な臭いがしましたが、この装置は、熱可塑性(熱を加えることで自由に調整できる)の素材でできており、お湯を使った簡単な調整をする事により顎を広げたり、個々の口腔内に合わせるすることができます。



「プレオルソ」マウスピース式装置

type-I

出っ歯 咬み合わせが深い
(上顎前突症 叢生 過蓋咬合・各種保定)



「プレオルソ」マウスピース式装置

type-II

前歯が咬み合わない
(開咬症 各種保定)



「プレオルソ」マウスピース式装置

type-III

受け口
(反対咬合 逆被蓋 各種保定)

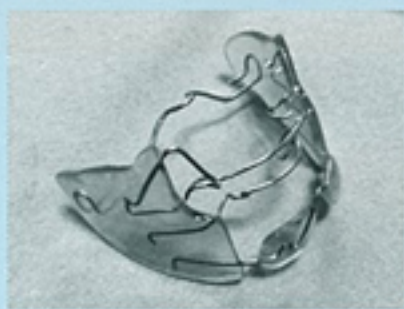
「プレオルソ」こども歯ならび矯正法とは?!

大塚は、母校の東京歯科大学矯正科が、当時から従来の機能的顎矯正装置を積極的に取り入れており、この治療結果が非常に良好なことに着目し、大学時代から現在に至るまで多くのマウスピース型矯正装置(機能的顎矯正装置)をを臨床に導入してきました。

そこで、この装置に近年の「新素材」を用いた開発を行い、その治療法を「プレオルソこども歯ならび矯正法」と命名した。新しい装置は、今まで非常に硬くて使いにくかった「プラスチック部分」を弾性のある材料にすることで、口腔内への装着感が非常に良くなり、複雑だったワイヤー調整を熱可塑性のポリウレタン素材を使うことで調整等を簡便にし、完成したのが「プレオルソ用装置」(マウスピース型)です。

もちろん、この新しい装置は昨日、今日考えられたアイデア商品ではありません。約70年以上前に先人が考え抜いてきた伝統的な矯正治療方法に、現代の「新素材」を用いた矯正治療方法であります。更に、大塚は装置を用いたトレーニング方法で「口の周り筋肉や発音および口呼吸から鼻呼吸へ」機能的な側面を重視した「機能訓練方法」をも確立しました。

「プレオルソ」装置の原点



フレンケル装置



ビムラー装置

取り外しのできる矯正装置(マウスピース型)の原型となる機能的顎矯正装置の歴史は古い。遡ってみると、1936年にノルウェーのAndresen&HäupleはFKO装置を、ドイツのFränkelは、オーラルシールドをKrusの考えとAndresenの考えを結び合わせてフレンケル装置を、Baltersは、Viggo AndresenのFKO装置に改良を加えバイオネーターを開発した。また、1948年FKO装置はBimler.H.Pによって改良を加えられ、ビムラー装置開発した。



大塚 淳

医学博士・歯学博士・東京歯科大学非常勤講師
日本矯正歯科学会認定医
大塚矯正歯科クリニック医院長

「プレオルソ」こども歯ならび矯正法は、当クリニックにご相談ください。

